

溪流空間の多様性を保全する 溪流保全工整備の手引き

平成 22 年 2 月

—この冊子の読み方—

本手引きは、下記の章で構成されている。各章において重要となる内容について簡単に示した。

1. 総説

本手引きの目的、適用範囲、構成、運用、用語の説明である。とくに溪流保全工においては、溪畔林を含む溪流空間を認識して計画することが重要であり、この溪流空間の定義が重要である。なお、ここでは土石流流下区間より下流の溪畔林を対象とする。

2. 溪流保全工の効果の考え方について

溪流保全工の効果は、砂防効果（土砂災害防止効果）、その他の防災効果、環境保全に関する効果がある。それぞれの効果の内容と、これらの効果の相互的な関係を整理した。

3. 溪流保全工の概要

溪流保全工の基本となる、①地域の治水安全度の確保、②溪流の生態系の保全、③溪流保全工の整備の考え方を示した。溪流保全工は、溪流空間を対象とした空間整備であることから、この空間整備の概念が重要となる。

4. 溪流保全工整備のための調査

溪流保全工の整備のために必要な調査をとりまとめた。調査内容は、河川砂防技術基準に基づいて実施する他、溪畔林調査や景観デザイン調査等、溪流保全工の整備で重要な調査内容及び方法について参考にして頂きたい。

5. 溪流保全工の計画

溪流保全工は、その地域を取り巻く環境を考慮しながら、地域の治水安全度を確保し、溪流の生態系の保全をはかるための溪流の空間整備である。このため、溪流保全工の対象範囲（空間）の設定の基本的な考え方と、自然河道を尊重した平面・縦断・横断計画及び空間整備を前提とした施設配置計画の考え方が重要である。溪畔林は様々な機能をもち自然環境保全効果などのプラスの効果を発揮するが、流木の原因となる可能性もあるため、流木止工等の施設を計画するなどの視点が重要となる。

6. 溪流保全工の設計

溪流保全工の設計は、溪流保全工に求められる機能が発揮されるように設計することが重要であり、溪流の多様性・連続性に配慮した溪流保全工の設計方法について参考にして頂きたい。

7. 工事実施上の留意事項

溪流保全工の工事実施にあたって、現状の溪流の生態系に大きな影響を与えないように、計画から施工まで一貫した認識を持つことが重要である。

8. 溪流保全工の維持管理

時間の経過に伴う溪流の各種条件の変化に対応して維持管理を実施することが重要であること、また、構造物及び溪畔林の維持管理の実施が重要である。